

くれるならば調停に立てもよいこの事であるが、我々としては白紙で一任する事がさうも不安に感ぜられたので今一應全會員に相談の上回答する事を約し、辭し先づ常喜院に行き報告するに白紙一任を絶對反對に滿場一致可決される、蓮花院に向ふも同様、普賢院も同様、此處では香西君激勵演説を爲し、警官より注意を喰ひ檢束されしが發言禁止を條件に放逐さる、最後に普門院に向ふ、此の所ではすでに古謝君が報告されて居たので此處でも滿場一致可決になつたので、金剛峰寺に回答に行きしに、それに同行の茶野君に内田君は白紙の解釋を間違へたらしく、白紙一任可なり云ひだしたのである。而君の白紙に對する解釋はこうである、白紙云ふ事は總てを水に流してしまつて一人の解雇者も出さない、今までに解雇されて居る十三人は復職が出来、會社側の聲明書も撤回する云ふので白紙だ云ふし、我々の解釋は決して本山側の云ふ事はそうした意味の白紙でなく、そんな解決をするかわからないが、とにかく無條件で一任して呉れないか、決して君等に悪い様な事はしないから云ふ、白紙だ云ふのである、此處にこうした馬鹿くしき意見の衝突が起り、再び高野線の同志數名が金剛峰寺に質問に出かけて歸つてから矢張り茶野、内田兩君の説を固持するので、物議が起り再議決の結果、高野線支部は白紙一任に可決する、されどもすでに大勢はきまつてゐる、白紙一任反對側の方が多數なのだ。しかし爭議團に暗影の投ぜられてゐる此際高野線の人々も歩調を別にする事が、甚だ不利なので種々協議したがさうも纏まらない、高野線で一番元氣の良い平井君を初め、小數の幹部は、一部の野心家に策動されて全く鬭争

心が貧弱に陥つてしまつた。

十五日夜半以來狀況視察の爲に下山して岸田君が歸つて語る所によれば、現場は假裝運轉を續けて其の場を僣ばせてゐるが僕が前述した通りに南海當局の策動にて可なりの下山者もあり、斯くして罷業の裏切者續出し、行違電車内にも下山者を見受けた等悲痛なる報告に接した。そして續だから元氣を出して籠から一時間半で登つてしまつたよと淋しく笑つた、それに連れられて笑ふ我々の笑聲も何となく淋しい其夜は其まゝ寢に付く。

明けて十八日本部に来る點呼報告は増々下山者の多くなつて來た事を物語つてゐる、一般もさうやら下山熱に浮かされて來たらしい、此うした間にも家族の訪門はぎんぐと來る、さうも收拾すべからざる所の狀況だ、此際機運一變して參謀より、一先づ高野山當局に白紙で一任する事にする。

本山側では藤村、久保、官崎の三師が會社側と會見すべく下山された、今は會社がさうした回答をするかを待つばかりだ、各宿所を廻つて見れば今は何所も淋しい、次等に解決は困難を加へてくるのみだ。然し乍ら一方で尙元氣な者もあつた『下山する奴は人間かい、情けなくなつてくるわと叫んでゐる頼母しい若者が特に目立つ』其夜歸山する事になつてゐた三師は、身體が疲れたので九度山で一泊し明朝登るこの事だ、坊さんなんて仲氣な者だなあと思つたが仕方がない、其夜は悲憤の涙をのみて寢に付く、さうも眠れない又カルモチンの御厄介だ。明くれば黒出多き十九日だ、三師の歸山を、會社側の回答を、團員は鶴の様に首を長くして待つてゐる、初